



人間いすが完成し、歓声を上げる生徒たち

洞 爺中
学校
でい
じめ
ゼロ
1000
日
を達
成し、
8月
31日、

その達成と開校70周年を記念して作ったTシャツを着て、開校70周年記念全校道徳を行い、いじめのない学校を全員で確認しました。

講師は、子どものチカラ研究会専務理事の穴沢剛行さんで、自己表現をテーマにした授業。生徒が、人間と鏡に分かれて、人間の動きに、鏡がまねをするゲームや全員が一つの円になり、同じ方向を向いて、後ろの人の腿の上に座る人間いすなどを行い、コミュニケーション能力や協調性を養いました。入学前からカウントが始まっていた佐長礼弥さん(3年)は「ずっといじめがなかったのうれしい。これからもいじめがなければいい」と笑顔で話しました。

開校70周年といじめゼロ1000日で記念Tシャツ 洞爺中で全校道徳授業

熱戦を展開 管内身体障害者スポーツ大会

身 体障害者の相互の交流と健康増進を目的に第47回胆振管内身体障害者スポーツ大会(同スポーツ大会実行委員会主催)が、9月3日、あぶた体育館で開催されました。

管内からは、7町170人が参加し、洞爺湖町が準優勝を勝ち取りました。

競技種目は、一発命中、フライングディスク、そ~れぱっくん!、水汲みりレー、玉入れの5種目。参加者



集中して輪の中をフリスビーで通そうとする参加者

らは、優勝を目指し、チーム一丸となり真剣に取り組んでいました。

パワースポットモニュメント完成 青葉山道一般に開放

風 水パワースポットとして人気を博している虻田神社の裏山に、山道が整備され、道中にパワースポットモニュメントが完成しました。9月19日、入魂式が開かれ、関係者約30人が参加しました。

虻田神社のパワーを楽しんでもらおうと昨年5月青葉山道整備の会が、虻田神社総代・世話人、洞爺湖商工会などの団体、個人により設立され、山道を整備してきました。同モニュメントは、標高約80m地点に龍の卵をイメージして設置され、石に願い事を書いて奉納するようになっています。

整備の会の前谷会長は「パワースポットを理解し、



モニュメントを囲んで記念撮影

楽しく散策していただきたい」と新たな観光資源に期待をしています。



スタートダッシュを決める選手たち

9月23日第22回洞爺湖町クォーターマソン大会(洞

爺湖町陸上競技協会主催)が、虻田ふれ合いセンターを発着点に行われ、小、中、一般合わせて16チームが参加しました。コースは、でんでん広場を折り返す周回コースで、1チーム5人がたすきりレーをしてタイムを競い合いました。

優勝チームは、次のとおり
▽小学校低学年 ダークエンジェル▽同高学年 スシ食いたい▽中学校男子 虻中バド部▽同女子 虻中バド、バレー部合同チーム▽一般 落合さんと消防の仲間たち

優勝目指してたすきをつなぐ クォーターマソン大会



まちのわだい

地域防災力の向上を 自治会で防災講演会

地域住民一人ひとりの防災意識を高めようと、入江1区自治会が、8月21日、防火・防災のための講演会を入江集会所で行いました。約40人が参加。

西胆振行政事務組合洞爺湖支署の大童伸一副所長が「地震・火災・風水害等で犠牲者を出さないために」と題して講演しました。山崎会長は「普段感じていることを再確認することができた。こういう活動を継続していきたい」と地域防災の重要性を強調しました。

入江3区自治会でも、9月17日、地域の長寿まつりで、役場の防災担当職員が防災に関する講話を行いました。



熱心に防災の心得を聞く入江1区自治会の皆さん

虻田中学校吹奏楽部が、第62回日胆吹奏楽コンクールで、19



遠藤教育長に全道大会出場を報告する大西部長（左）と三浦顧問

年ぶりの全道大会出場を決め、8月24日、教育委員会を訪れ、遠藤教育長に全道大会出場を報告しました。同コンクールは、苫小牧市で7月29、30日に開催。虻田中は、25人以内のC編成に出場し、上位3校に入り、全道大会への出場を決めました。

大西彩綾部長（3年）は「全道大会は、地区大会より更により演奏ができるようにがんばりたい」と意気込みを語り、遠藤教育長は「全力をださきってがんばってください」と激励しました。

9月1日、札幌市で開催された全道大会では、銅賞を受賞しました。

19年ぶりの全道出場 虻田中学校吹奏楽部

とうや湖泳協会は、8月26日、第28回洞爺湖町水泳選手権競技大会を町民プールで開催し、洞爺湖町水泳少年団や伊達スイミングクラブのほか、町内の小中学生のスイマーなど35人が参加し、自己記録の更新を目指しました。



勢いよく飛び込む選手たち

競技は、男女とも小学1・2年生、同3・4年生、同5・6年生、中学生、一般の年齢別で行われ、25、50、100メートルごとの自由形、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライと100メートルの個人メドレー、メドレーリレー、フリーリレーの7種目が実施されました。選手らは、仲間や家族の声援を背に、力強い泳ぎを披露しました。

自己記録の更新に挑む 水泳選手権競技大会

後世に伝える戦争体験 すいとん食べて戦争を語り継ぐ

平和の尊さや大切さを後世に伝えていこうと「すいとんを食べて戦争を語りつぐ集い」（洞爺湖町非核平和のまちづくり実行委員会主催）が、8月27日、虻田ふれ合いセンターで開かれ、約60人が参加しました。

初めに服部幸江さん（虻田6区）と松本ます子さん（同）が、樺太や満州からの引き揚げ体験での苦勞を話しました。体験談終了後、すいとんを味わいながら参加者自らの戦争体験を述べました。最後に長崎良夫さんが「戦争は絶対しない。核兵器は絶対廃棄。このことを頭にぜひ入れてもらいたい」と挨拶しました。



すいとんを味わいながら戦争体験を話す参加者

まちのわだい

